

平成 21 年度文部科学省「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に本学の「建築リソースマネジメントの人材育成—歴史的建築・資料の保存活用のための職能教育プログラム」が採択されました。

1. 名称

「建築リソースマネジメントの人材育成—歴史的建築・資料の保存活用のための職能教育プログラム」

2. 実施研究科・専攻

大学院工芸科学研究科・造形工学専攻〔博士前期課程〕

大学院工芸科学研究科・造形科学専攻〔博士後期課程〕

3. 教育プログラムの目的

従来の文化財の枠組みに収まらない歴史的建築をどのように価値付け活用していくかは、持続可能な環境を目指す社会にとってきわめて重要な課題となりつつあります。

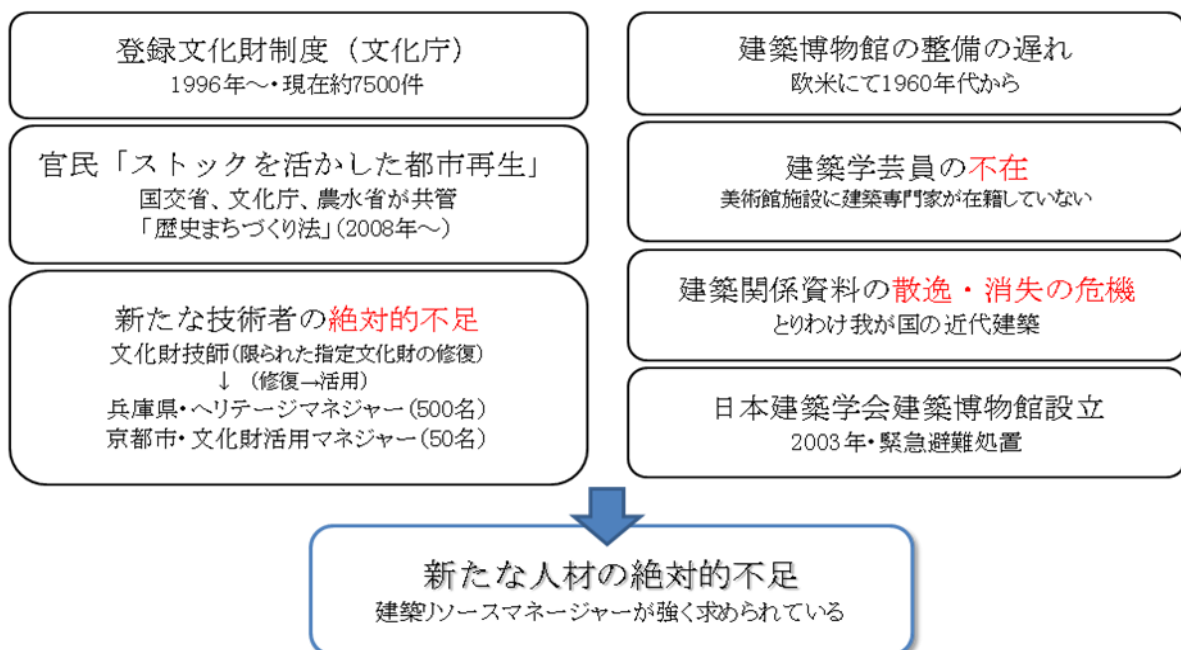
京都工芸繊維大学では、以下の二つの能力を併せ持つ人材を育成する教育プログラムを実施します。

- ①近現代も含む歴史的建築遺産を正確に価値付けることができる能力
- ②その価値付けを基に的確な活用のマネジメントを遂行する能力

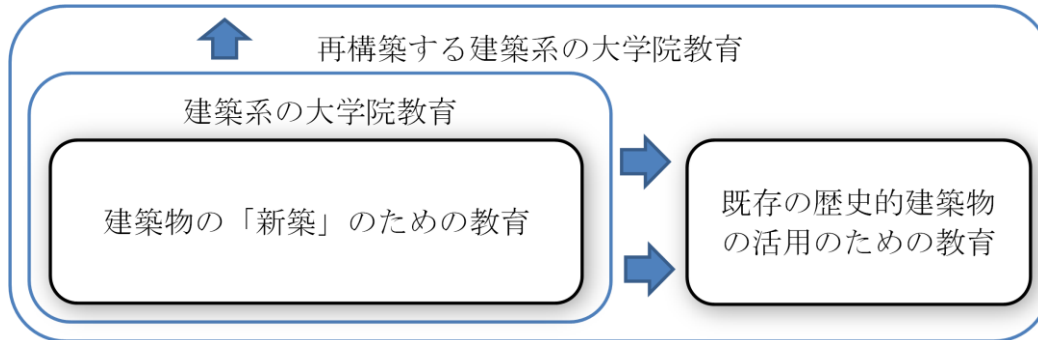
<建築リソースとは>

近現代の建築では、設計図面等の資料類も重要な遺産となるため、本プログラムでは、資料類も含めた新たな建築文化財概念として建築リソースという用語を定義しました。

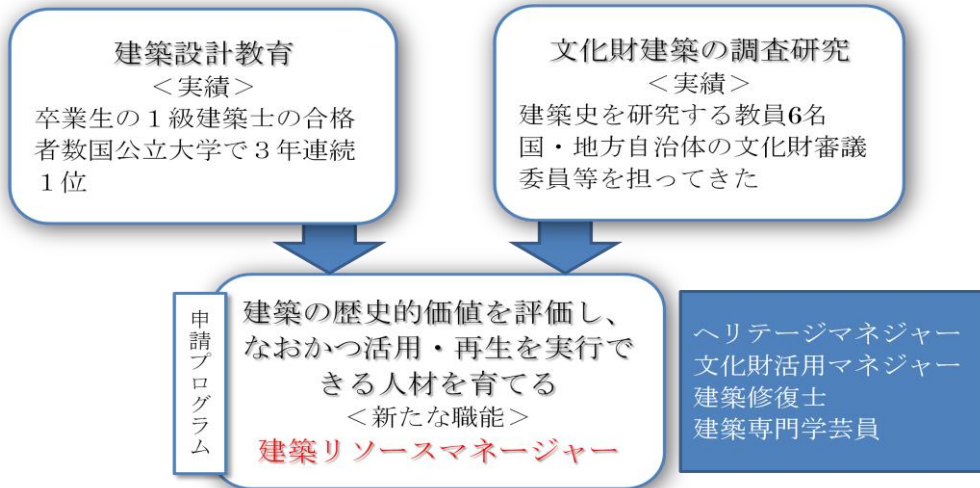
4. 社会的背景



5. 目指した建築系の大学院教育の実質化(新たな展開)

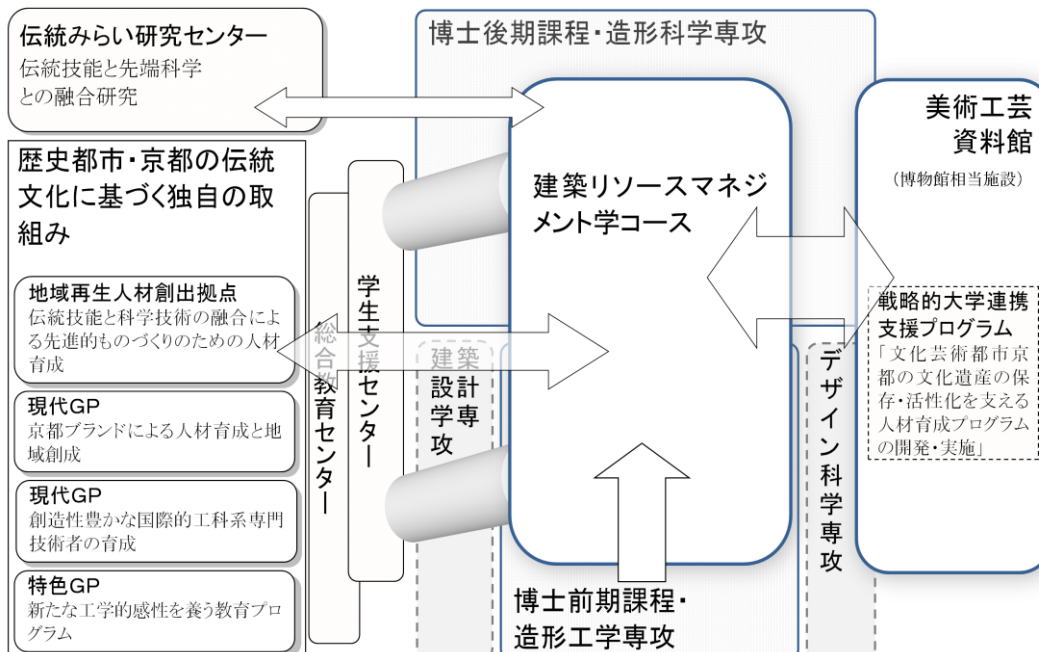


6. プログラム立案の経緯



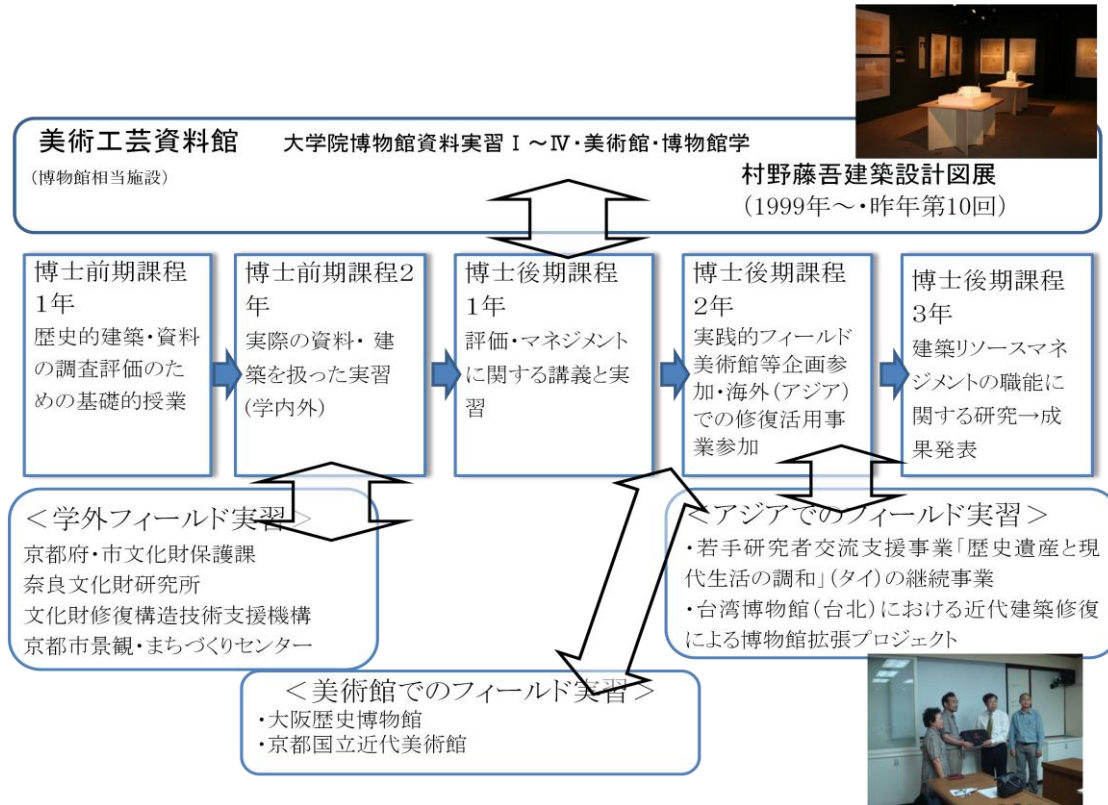
7. 学内の体制

プログラムの目的にある①と②の能力を育成するために、造形工学専攻(博士前期課程)、造形科学専攻(博士後期課程)の2専攻と美術工芸資料館が共同して、新たに「建築リソースマネジメント学コース」を設置します。



8. 教育プログラムの内容

学内の美術工芸資料館と同時に、これまで関係を築いてきた国内外での研究機関、美術館、文化財行政、さらに修復・まちづくりの実践現場での実践的実習(フィールド実習)を教育の中核に据えます。



9. 組織的な大学院教育改革推進プログラムとは(※(独)日本学術振興会公表資料からの抜粋)

平成19～20年度に実施した「大学院教育改革支援プログラム」を見直し、中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」(平成17年9月)や「教育振興基本計画」(平成20年7月閣議決定)等の提言を踏まえ、社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院博士課程、修士課程を対象として、優れた組織的・体系的な教育取組に対して重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化及びこれを通じた国際的教育環境の醸成を推進することを目的とするものです。

また、採択された取組を広く社会に情報提供することで、今後の大学院教育の改善に活用します。平成21年度は、163件の申請がありました。